

いろいろ丸事件の舞台
鞆の浦で
お待ちしております。



大西公孝さん・佐藤知代さん

鞆龍馬おもてなし隊

大好きな坂本龍馬に扮して観光客の方々に道案内をしたり、お店を紹介したり、一緒に記念撮影をしたり。鞆の浦のPRというより、私たち自身がふれあいを楽しむ気持ちで活動しています。「いろいろ丸事件」の時に龍馬が隠れ家として利用していた「樹屋清右衛門宅」が当時のまま今でも残っているなど、このまちは歴史の宝庫なんです。



港町の鞆の浦にはいたるところに猫の姿が…

次代に引き継ぐために
伝統を重んじながら
進化させていく。



岡本良知さん(岡本亀太郎本店)

保命酒蔵元

創業は1855年。みりんをベースに16種類の薬味を配合する保命酒の醸造方法は、創業の時代から変えていません。ただ、常に自分が納得できる良質な保命酒を造りたいと考え、原材料にこだわり、機械や技術を探求しています。さらに保命酒に梅を漬け込んだ「梅太郎」、杏の実で「杏子姫」など、新分野も開拓中です。



旅館「遠音近音」の貸切温泉露天風呂から



多様な文化が出会い、
人々の感性が磨かれた。



柳野展正さん
(キュレーター)

鞆の津ミュージアム

鞆の浦はアート好きな人がけっこう多いところなんです。「おかんアート」と題して、地元のおばちゃんたちが創った手工芸作品の展示会を開いたこともあるほど。いろいろな文化が混じり合った港町の歴史がまちの人たちの感性を豊かにしているのかもしれない。このまちは観光地らしさがあまりなく、どことなく生活感があるところも気に入っています。



日東第一形勝



江戸時代の元禄年間に創建された対潮楼。かつて朝鮮通信使が「日東第一形勝」と賞賛した眺望

【特集】
何もないとは
言わせない!

出会いがある。ふれあいがある。感動がある。
日本の他のどこにもない、
このまちならではの魅力を体感しませんか。



鞆の祇園さんとも呼ばれる沼名前神社

革新。伝統。という

「鞆の浦」

沼限半島の先端にある鞆の浦は、
万葉の時代から港町として繁栄し、
さまざまな歴史に彩られてきました。
時代ごとに豊かな文化を育んできた
このまちの魅力を探ります。

時代を先取りする
人と文化が
集まってきた。



鞆の浦のシンボル常夜燈

鞆の浦は昔から潮待ちの港として栄え、豊かな文化を育んできました。瀬戸内の中央に位置する「鞆の浦」。この地名は『万葉集』にも登場するほど。近世には鞆城を中心に城下町が整います。やがて西廻り航路が開発され、北前船などの商船が入り出すようになります。江戸時代には朝鮮通信使やシーボルトを伴ったオランダ商館長の一行が入港するなど国際都市の一面もみせ、時代を先取りして進化し続けました。幕末には三条実美ら七卿が寄港した場所、坂本龍馬が「いろいろ丸事件」の時に紀州藩と談判した場所にもなりました。

歴史的な遺産も多く見られ、江戸時代の港湾施設である常夜燈、雁木、波止、焚火跡、船番所跡が残っています。

「建物も道路も、江戸時代の名残があり、ずっと受け継がれている。そのまち並みそのものが魅力」と語るのは、この地で30年間観光ガイドを務める宮本和香さん。「岡山出身で、鞆に嫁いできたときは「鞆」という漢字も読めなかったくらいなの。けど、観光客の人に道を聞かれては答えているうちに、鞆を少しでも案内してあげたいいな」と思ってた。それからはいろいろな先生に話を聞いたりしながら勉強して、奥さん5人でガイドをはじめたんです。さまざまな歴史を感じられる鞆の浦。満ち潮になると西は豊後水道や関門海峡から、東は紀伊水道から潮が入り、鞆の浦沖でぶつかります。

「どんな偉い人でも必ず鞆の浦で潮を待たなきゃ九州にも大阪にも行けなかった。その当時の船はエンジンがないから潮の流れや風をうまく利用するの。だから鞆の浦は大事な港町だったの」と宮本さん。港町としてにぎわった鞆の浦は日本のあらゆる地域と何らかの関わりがあると話します。「どの地域から来ても自分の故郷のような懐かしい感じがするはず。そこも鞆の浦の良さなの。」



宮本和香さん(鞆の浦奥様ガイド)

福山駅から鞆の浦まで、レトロなボンネットバスが走っています

